

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)綱場プロジェクト■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.7
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.8
1 音環境		4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	Dr-45	5.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	LL-55	4.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	LH-55	4.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	ロックウール系吸音天井材、床タイルカーペット	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御		3.7	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能な空調システム	5.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.7	0.25	-	-	3.7
3.1 昼光利用		3.4	0.31	-	-	
1 昼光率		3.0	0.59	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	手動グラデーションブラインドの採用	4.0	0.41	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	タスク・アンビエント照明方式	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	1作業単位で照明制御可	5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.4	0.25	-	-	4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を採用	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	換気量35m3/h人	4.0	0.34	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	屋上及び北面外壁を利用した給排気を行う	5.0	0.34	3.0	-	
4.3 運用管理		3.5	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	置型CO2センサーの設置	4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	4.1
1 機能性		4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペース10m2/人	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	複数の通信事業者の回線がビル内へ引込	4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動円滑化誘導基準を満足	4.0	0.34	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務室の天井高さ2.8m	4.0	0.34	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画	内装計画の事前検証等	5.0	0.34	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材の採用等	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	ゴミの排出が容易な計画等	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.9	0.30	-	-	3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.2	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	建物全体で強風時の内部設備保護を図る	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数50年	4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	カーテンウォール、押出成形セメント板	4.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット、壁:ビニルクロス、天井:システム天井	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水器具の採用等	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	ネットワーク機器用は無停電装置を設置	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.4	0.30	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		4,500N/m ² 以上	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく空調配管の更新・修繕が可能	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕・更新が可能	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備スペースが確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		広場・歩道 公共開放地	3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ビロティによるアメニティの向上	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m]=1.07	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		自然換気システムの計画	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]= 0.72	3.8	0.50	-	-	3.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	建築物全体のエネルギー消費量の目標値を計画し建築主に提出	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水を利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	山留め等として利用	5.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材の利用なし	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	骨材、セメントのリサイクル資材の利用	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着材・シーリング材等	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発砲を用いた断熱材等を使用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物と同等	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置き場の確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策がドラインを満足	4.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	